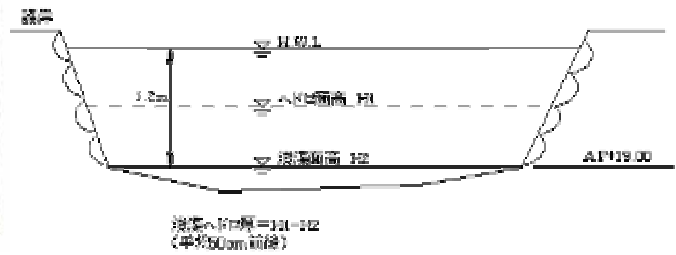
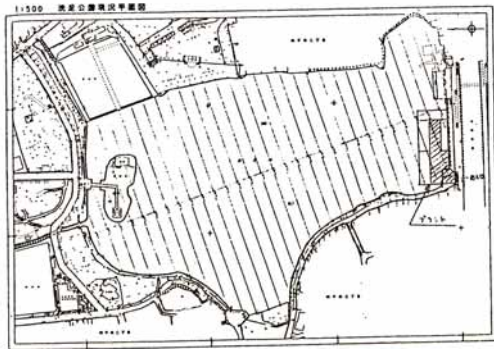


## 2 池の浚渫泥土を固化処理して盛土材として再利用した例

### (1) 概要

事業者	工事名	施工場所	工事目的	施工量 (m <sup>3</sup> )	使用機種	工事期間
東京都	洗足池浚渫固化処理工事	東京都大田区南千束2丁目地内	池の浚渫泥の盛土への再利用	20,200	V-50	S63年2月 ~ H1年4月



### (2) 配合設計

#### 原泥の土質性状

試験項目	含水比 (%)	湿潤密度 (g/cm <sup>3</sup> )	土粒子の密度 (g/cm <sup>3</sup> )	粒度 (%)			液性限界 (%)	塑性限界 (%)	強熱減量 (%)	分類名 分類記号
				砂	シルト	粘土分				
試料	156.6 ~ 377.5	1.151 ~ 1.299							21.2 ~ 26.7	粘質土 CL

#### 設計強度

材齢3日後の一軸圧縮強さ  $q_u=50$  (kN/m<sup>2</sup>) とした。

#### 改良材の種類

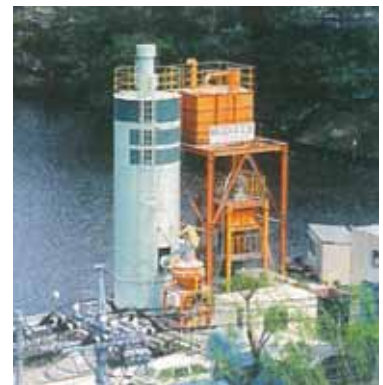
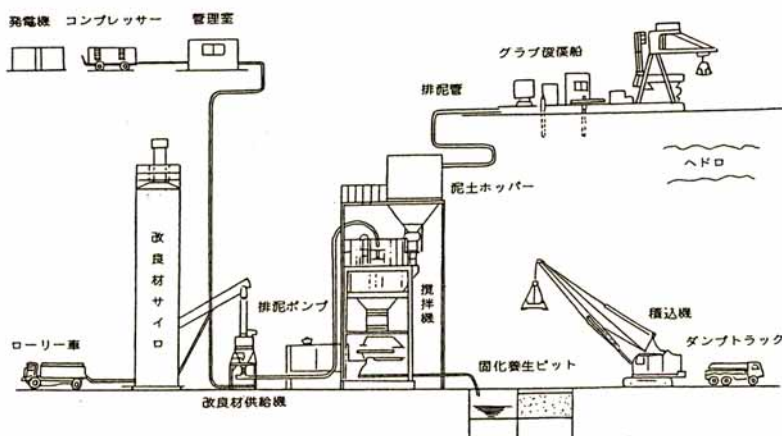
原泥に有機分が多いことにより、高有機質土用セメント系固化材(粉体)を選定した。

#### 設計添加量

110 kg/m<sup>3</sup>

### (3) 施工内容

泥土投入 泥土供給 改良材圧送 混合 処理土排泥



[ 実 績 ]

平均日当たり施工量 400～500m<sup>3</sup>/日（1基で施工）

[ 品質管理 ]

定量供給される泥土に対して、設定した添加量 110kg/m<sup>3</sup> になるように改良材供給機で計量後エア圧送された改良材と十分混合攪拌され、送泥ポンプで養生ピットに送泥された。これら一連の操作は管理室の操作パネルで監視記録され十分な品質管理が行われた。

(4) 設計・施工上の留意点と課題

MUDIX連続式処理工法を適用することで、建設発生土の処理や河川底質を新しい盛土材（資源）として有効活用することができる。

本工事では、材齢3日の一軸圧縮強さ  $q_u=50\text{kN/m}^2$  と設定しているが、現場養生の供試体強度は平均値で  $70\text{kN/m}^2$ 、最低値で  $50\text{kN/m}^2$  と設定強度を満たしている。

なお、この設定強度では、利用先において、そのまま埋立に利用するのであれば問題ないが、ブルドーザによる押土は困難であった。

盛土材としてすぐ利用する場合、利用先において  $q_u=50\text{kN/m}^2$  確保されていれば、ブルドーザの押土を行えるトラフィカビリィは確保されるが、この場合は掘削練返しによる強度低下を考慮して強度設定する必要がある。

本工事においては、埋立に殆ど使用しており初期材齢の施工であったため、長期的には強度増加があり支障はなかった。